

## C F T ニュース&息抜き（7月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

### 1. 2024年6月の気になる問合せ

(1) 「コーヒー生豆をワインに漬け込んだコーヒー」を販売したい。コーヒー生豆を専門の業者がワインに漬け込み風味付け後、当社へ戻し、当社にてロースト・グラインド・袋詰めする。この時の表示について伺いたい。

- ① 品名は「レギュラーコーヒー」でよいか？
- ② 原材料名は「コーヒー豆、ワイン」でよいか？
- ③ 製造者は焙煎・パッキング加工を行う当社でよいか？

⇒ インフューズドコーヒーについて、コーヒー公取協の対応は3月研修会の線から変わっていません。

ワインは、消費者庁次長通知「食品表示基準について」の別添2-2に掲げる「天然香料基原物質リスト」にありません。しかし、ワインに漬け込んだコーヒーを飲用した消費者が疑問に思うといけけないので、原材料名には「コーヒー豆、ワイン」と記載されることをお奨めします。

コーヒー公正競争規約はコーヒー100%主義が原則ですが、インフューズドコーヒーについて全日本コーヒー公正取引協議会の対応が固まるまではレギュラーコーヒーとされて構いません。

①について

当面、レギュラーコーヒー名称はOKです。

②について

「コーヒー豆、ワイン」としてください。

③について

ワインに漬け込んだコーヒー豆を焙煎・粉碎・袋詰めを御社が行うの

であれば、御社が製造者となります。

- (2) 当社はベトナムから焙煎アラビカコーヒー粉を輸入・販売するため、保健所に一括表示の指導を求めたところ、全日本コーヒー公正取引協議会に聞くように言われた。製品名を「中粗挽きコーヒー」としたいがどうか。中粗挽きコーヒーの根拠はベトナムの輸出業者の製品名称に合わせたもの。「コーヒー生産国名」や「挽き方表示」の記載は必要か。

⇒ 製品名を「中粗挽きコーヒー」としたいとのことですが、コーヒーの場合、「レギュラーコーヒー（粉）」としてください。「中粗挽きコーヒー」については「挽き方：中粗挽き」とされてはいかがでしょうか。

ベトナムから製品を輸入・販売するのであれば「原産国：ベトナム」とされ、バルクで輸入し販売用の容器包装に自ら詰替えるのであれば、輸入者の御社が加工者に位置付けられます。

コーヒー豆の生産国がベトナムであれば、「生豆生産国名 ベトナム」と記載してください、これは食品表示法に従うものです。

「挽き方表示」は全日本コーヒー公正取引協議会会員がコーヒー公正競争規約に従って記載する事項で、非会員は義務ではありません。

なお、ご存じと思いますが、ベトナムはカネフォラ種ロブスタの世界最大の生産国で、アラビカ種コーヒー生産量は5%程度のシェアと思いますので、輸出先にアラビカ種 100%か確認されてはいかがでしょうか。

## 2. コーヒーを巡るいろんな状況

近年、温泉宿は宿泊客サービスの一つとしてレギュラーコーヒーの提供が目立ってきたように思う。夕食後、朝など時間を限ってではあるがコーヒーが自由に飲めるようになってきた。昔は日本茶（緑茶）一辺倒であったが、コーヒーが主、緑茶は従という感じに変わってきている。CFT 子には緑茶は無料、コーヒーは有料という感覚があったが、変わってしまった。食生活の変化か、おもてなしの変化かわからないが、コーヒーを好む日本人が増えてきている反映であることは間違いない。

CFT 子は先日、長野の鹿教湯温泉に宿泊したが、季節柄、雨であった。ただ、雨でないと体験できないのを見た。露天風呂は森に囲まれ、木々の緑は雨に濡れ輝くような深い緑であった。面白かったのは風呂に落ちる雨粒で、落ちると紡錘状やお椀状などの様々な形状になるが瞬時に弾けてなくなる。雨粒のこ

の形と消滅が面白く、つい長湯になってしまった。幸い、雨のせいで露天風呂は一人で雨粒の創る模様を飽くなきまでに見ていた。大粒の雨はさざ波となり、福田平八郎の漣を思い出させた。

暑くなり、小生の利用するコンビニの出入口が混みだした。アイスコーヒーを求める人が目立つ。今朝も込み合っており1台では足りないと思うが、店の形状上1台が出入り口脇に鎮座するのも仕方がない。1杯130円で抽出直後のコーヒーを楽しめるのは素晴らしい、と思う。抽出が終わると待ちきれずストローを蓋に指して飲む人もいる。ただ、人がいるので気を付けないとストローで口内トラブルが起きないか気になる。注意すべきだ。

最近、気になるのは子供たちのマナーである。昨日、最寄り駅の交差点で信号待ちをしていた。青に変わる直前、救急車のサイレンが聞こえ、横断歩道を横切ろうとした救急車の前を小学6年生程度の子が走って渡った。信号待ちの人の中に「危ない」と叫ぶ人がいたが、CFT子もびっくりした。子供は多くの方が救急車待ちで横断報道にいないのを幸いとして、歩道を走りたかったのかもしれないが、救急車は人命を預かっていることに思いが行かないのであろう。幸い何事もなかったが、救急車のドライバーはびっくりしただろう。下校時の子供たちは歩道一杯に広がり対向者などを殆ど見ていない。身の安全は子供であろうと自ら守るべきものと思うが……。

今年の夏も猛烈に暑そうである。アイスコーヒーを飲んで乗り越えよう。

(7月3日記)